

～ All for one, One for all. ～



光の家

THE LIGHT HOUSE FOR THE BLIND

視覚障害者総合福祉施設
東京光の家会報

— 204 号 —

2019 年 11 月 15 日発行

創世記

第九章 十二〜十三節

さらに神は言われた、「こ
れはわたしと、あなたが
た及びあなたがたと共に
いるすべての生き物との
間に代々かぎりなく、わ
たしが立てる契約のしる
しである。
すなわち、わたしは雲の
中に、じを置く。これ
がわたしと地との間の契
約のしるしとなる。」



～光バンド～ 2019 愛のサウンドフェスティバル (日野市 ひの煉瓦ホール)

巻頭言

日ごとに冷気加わり、深
まる秋を実感いたしており
ます。

さて台風一九号の災害支
援について東京光の家は福
祉避難所として初めて四名
の方を受け入れましたがま
だまだ社会福祉法人の防災
ネットワークを活かしなが
ら対応していく必要性を感
じました。

今回は田中前理事長と
親交の深かった聖明福祉協
会の本間会長にご寄稿頂き、
光の家が信仰に支えられて
一〇〇年の歴史の中でこの基
本精神が浸透し、受け継が
れているとのお言葉を頂き
誠に感謝でございます。

また「光バンド」コンサー
トにもご利用者と共にご参
加頂き、感銘を受けられた
とのこと。

今後光の家が活き活き
とした社会に望まれる法人
となるよう努力を積み重ね
ていく所存でございます。

(理事長 石渡 健太郎)

信仰に支えられて一世紀

「光バンド」は三二年

社会福祉法人 聖明福祉協会 会長 本間 昭雄



業が展開されたことの証であり、敬服の他はありません。

昨年暮、敬愛してやまない友人田中亮治先生を天国に送りました。実に五〇有余年の交友でした。今も思い出は脳裏を駆け巡ります。創設者の秋元梅吉先生を近年知る人もほとんどなくなりました。先生は、口は重く、信仰に徹した方で、幾たびも会議などで意見を述べ教えを請うたものです。一世紀という歴史は燦然と輝き、神の御心にかなう事

令和元年は、田中先生が心を尽くし生み育んできた「光バンド」が誕生して三二年にもなりました。毎年開催のコンサートには、いつもお招きを頂き、今年も聖明園の利用者も多くさん伴い参加いたしました。その都度みんなが感動を覚え、利用者は日々の生活の励みとしていました。多くの聴衆も深く感銘を受けたことは、あのホールに揺れるような拍手が鳴り止まなかつたのが物語っています。

施設も救護施設から始まり、今や多岐に渡る種別の異なる福祉施設を経営されています。秋元、田中、現石渡理事長へと受け継がれた揺るぎない信

仰の賜物、全職員にこの精神が浸透し、すべての基本は、創設当時そのものが受け継がれています。

思い出の一つに、東京都が、公私格差是正の制度を、我々民間事業者の厚い要望にこたえ誕生させたときのことがあります。公私の別なく施設職員の待遇が同等に位置づけられ、措置費以外に差額を支給したのです。しかし、当時の田中理事長は、自らの給与体系を改めることは出来ない、光の家を守るためには、現在の給与体系を維持すると強行に抵抗されました。指導検査の時や東京都へ呼び出されることがあつても動ぜず、担当者から返還命令を出すと言われても、「どうぞ、金庫に入っているから持っていくください」と答えられるたといいます。

の給与表を貫きました。この信念と強さを支えたのは、信仰以外の何者でもありません。この公私格差を是正する制度は後に廃止され、多くの施設が混乱したことは広く社会事業家の知るところです。

光の家を愛し、職員を愛するがゆえに、終始一貫、光の家

光バンドの音楽と、秋元梅吉先生、田中亮治先生の思い出が心に去来する中、光の家が百一〇年に向けて、石渡理事長の強いリーダーシップにより、更なる充実発展することを願いつつ、本稿を閉じたいと思います。



東京光の家創立百周年の取り組み

東京光の家では、今年創立百周年を迎えます。

この大きな節目を祝うべく、様々な取り組みを企画、実施しています。

東京光の家ロゴマークの製作

東京光の家のロゴマークを製作しました。

ノアの箱舟の物語である創世記第八章十一節「はとのくちばしにはオリブの若葉があった。ノアは地から水がひいたのを知った」と、創世記第九章十三節「わたしは、雲の中ににじを置く。これがわたしと地との間の契約のしるしとなる」より、光の家の「光」と十字架、虹、鳩、オリブの葉をモチーフにしました。



〈東京光の家 100 周年ロゴマーク〉



〈東京光の家ロゴマーク〉

スタッフジャンパーの製作

爽やかなライトグリーンของ スタッフジャンパーです。前面の右胸には新しい光の家のロゴ、そして、背面には、新しくデザインされた百周年記念マークが配されています。



スタッフジャンパー

光の家百年の歩みビデオ製作

東京光の家の百年の歩みについてまとめたビデオを製作し、九月十四日に開催された愛のサウンドフェスティバルにて上映されました。



光の家 100 年の歩みビデオ

その他、東京光の家百周年記念誌の発行や、令和二年二月には、光バンド演奏を兼ねた東京光の家百周年記念式典なども予定しています。

東京光の家創立 100 周年 記念チャリティーコンサート

愛のサウンドフェスティバル

2019.9.14 (土)

ひの煉瓦ホール [日野市民会館]



Spirit

[スピリット]

1912年 盲目の人 秋元梅吉 20歳の時に
聖書と出逢う。盲人である前に人としてあるべき
信仰こそ人格を高める唯一の道と考えた故に
「盲人に聖書の福音を」と祈る。そして1919年
東京光の家が生まれ、今 100年の歴史を刻む





光バンド

「愛のサウンドフェスティバル」 実施のご報告

今年度の愛のサウンドフェスティバルは、東京光の家創立百周年記念チャリティコンサートとして、盛大に開催いたしました。サブタイトルは、光の家のキリスト教の基本精神である「Spirit スピリット」でした。会場はひの煉瓦ホール（日野市民会館）でした。

今回は、光バンド以外に、光の家聖歌隊、そして、小学生から高校生まで約六十名で活動しているゴスペル聖歌隊であるエバーグリーン・クワイアールの皆さんが出演してください、百周年記念に花を添えてくださいました。演奏内容は、「今を生きて」「スタートライン」など、おなじみの曲から、光の家聖歌隊、エバーグリーン・クワイアールの皆さんと一緒に「三六五日の紙飛行機」を演奏するなど、アンコールを含め十四曲でした。

エバーグリーン・クワイアールの皆さんの力強いハーモニーが会場を包み込み、光バンドのメンバーも二層演奏に力がこもり、百周年を祝うとても良い演奏会にすることができました。

今回は、日野市荻原弘次副市長にご来場頂き、お祝いのお言葉を頂戴致しました。そして、今回も司会を快くお引き受け頂き、素敵な司会進行をして頂いた高田敏江さんにも、感謝申し上げます。

今回も、演奏会の福祉協力券売上の一部を、日野社会福祉協議会へ贈呈させていただきました。

百周年の節目を祝う演奏会を多くのお客様に見て頂き、無事終えることができましたこと、利用者・職員一同、心より感謝申し上げます。



開場前に長蛇の列

今年も体育の日にチャリティーバザーが開催されました。未曾有の台風が過ぎ去り、さらに当日は小雨が降り続く中でしたが、多くのボランティアの方や保護者の方々のご協力やご支援をいただきながら無事に終えることができました。光の家百周年という節目に地域に根ざしたバザーで、改めて皆さんとの「絆」



小雨でも大盛況でした！



保護者の皆さんもがんばりました

チャリティーバザーを感じました。心より感謝しております。

第42回

光の家百周年 チャリティーバザー

令和元年十月十四日(月) 体育の日
旭が丘東公園・光の家ピロティ



触ってオセロの裏表が分かります

今年も、日野四中の生徒さ
地域の方に光の家に来てもらうイベント『光の家オープンハウス』を開催しました。点字を書いてみて、アイマスクをして手の感覚だけで何の果物か当てるクイズやジュースを飲むこと、また、視覚障害者の卓球もしてもらいました。市内の小学生が楽しみながら様々な体験を通して視覚障害者のような見えない世界を感じてもらえたようでした。

第9回
光の家
オープンハウス
令和元年九月七日(土)
光の家地域交流センター



手の感触だけがたより？



音を聞き分けてボールを返すのは難しい！

地域とのつながりを深められるよう目指します。
このようなオープンハウスを継続していくことで多くの地域の皆さんに「東京光の家」を知っていただくことで、地域とのつながりを深められるよう目指します。
みんながボランティアとしてイベントのお手伝いをしてくれて、体験の対応や光の家の利用者としてゲームをして交流もしてくれました。



車椅子ラグビーに挑戦!

残暑も過ぎ、やっと秋らしい季節になってきた頃、日野社協主催のみんなと一緒の運動会が開催され、各施設から多くの利用者が参加しました。子どもも大人も障害を持つ方も「運動」を通して一緒にふれあうことができました。また光の家神愛園では、毎年恒例の小運動会が開催され、こちらもさまざま競技で汗を流しました。



大玉ころがしで笑顔の利用者達



ハロウィーン仮装競争

秋の運動会

みんなと一緒の運動会

十月六日(日) 日野市市民の森ふれあいホール

神愛園小運動会

十月三十一日(木) 光の家講堂



新しく建立された墓碑



新しくなった光の家の墓の全景

例年のお盆の時期に代わり、今年度は約一か月伸ばして田中先生夫妻はじめ六十四名の故人を偲びました。物故者全員の名前が刻まれた墓碑も建立され、記念すべき時間となりました。

田中先生夫妻を
偲ぶ会

令和元年九月二十日(金)

同行援護従業者養成研修 受講生募集 (東京都指定研修)

～視覚障害者との歩き方・援助の仕方を学びませんか～

〔研修期間〕 2020年2月3日(月)～2月23日(日)
通信期間：2020年2月 3日(月)～2月23日(日)
通学期間：2020年2月22日(土)～2月23日(日) の2日間

〔場所〕 東京光の家 地域交流センター 研修室他
〔費用〕 9,400円 **〔定員〕** 18名 ※定員になり次第メ切
〔研修修了者〕 同行援護従業者の認定資格を取得
〔お問い合わせ〕 東京光の家 TEL：042-581-2340



自衛消防訓練審査会

自衛消防訓練審査会 敢闘賞受賞

令和元年九月二三日(金)
豊田南区画整理地内公園予定地

真夏の約一カ月間という短い練習期間の中、応援に駆け付けた利用者と職員の声援を背に、練習の成果を発揮、敢闘賞を受賞しました。



放水 始め!



出場者全員 敬礼!

オール・ブリュット 立川二〇一九

令和元年十月二十三日(水) 二十八日(月)
伊勢丹立川店 十月三日(木)〜十六日(水)
立川タクロスミニギャラリー

今年も立川市で、アールブリュット立川が開催されました。アールブリュットとは、加工されていない生(き)の芸術という意味のフランス語だそうので、美術に関する専門的な教育を受けていない光の家の利用者の作品が、今回も選ばれ、展示されました。

メイン会場の伊勢丹立川店には、清水峰男さんのコーナーが設けられ、四点の作品が展示されました。その他にもサテライト会場である立川タクロスのギャラリー



伊勢丹に展示された陶芸作品と作者の清水峰男さん

今年も園生を代表して陶芸訓練に参加している清水峰男さんが出席しました。



籐細工作品「きのこの森」



紙作業と木工作品「ひよこ」

寄付者名簿

令和元年七月二十一日〜令和元年十二月五日

浅石 常勝様	メロン	五玉
若林 まつえ様	米	二七kg
林 アツ子様	籾	九七五kg
宮洞 真様	全園員店共通啓券	四枚
杉田 功様	梨	五九個
広瀬 美幸様	梨	三〇個
金沢 信治様	大根	六九kg
井川 幸雄様	りんごジュース	一〇袋
株式会社リード・リアルエステート様	梨	八四個
綾木 潔様	梨	一〇四個
島田 英樹様	梨	三九個
船橋 敬様	すだち	一kg
佐藤農園様	玉ねぎ	一五kg
小西 妙子様	ケーキ	一〇〇個
阿久津 隆様	柿	一四五個
米倉 清治様	玄米	五四kg

※紙面の写真は、すべてご本人の許可を得て掲載させて頂きました。

発行 行 一九一〇〇六五
東京都日野市旭が丘一七七一七
社会福祉法人 東京光の家
電話 〇四二(五八)二三四〇
FAX 〇四二(五八)九五六八